

村田製作所(6981)

コンデンサの構成比が46%

2023年度 売上収益構成比

デバイス・モジュール

6,952億円

機能デバイス

センサ、タイミングデバイス（発振子）など

907億円

エネルギー・パワー

リチウムイオン二次電池、電源モジュール

1,644億円

高周波・通信

コネクティビティモジュール、
高周波モジュール、表面波フィルタ、
樹脂多層基板など

4,401億円

その他

ソリューションビジネス、
ヘルスケア機器、機器製作など

112億円

コンポーネント

9,338億円

コンデンサ

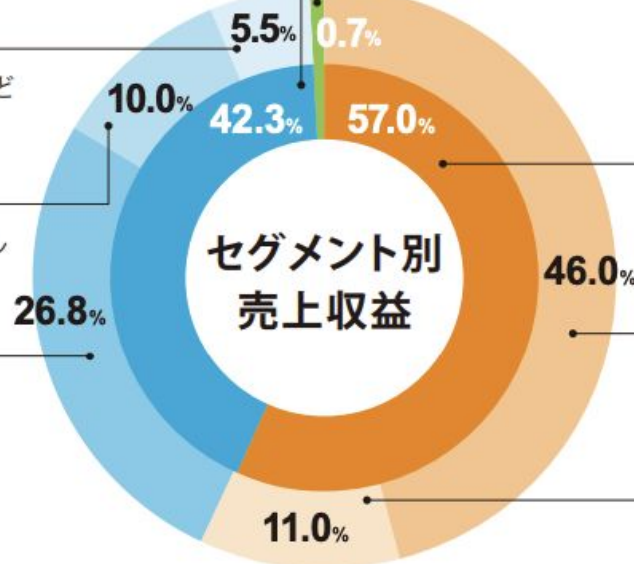
積層セラミックコンデンサなど

7,535億円

インダクタ・EMIフィルタ

インダクタ、EMI除去フィルタ

1,803億円



村田製作所の電子部品は 世界シェアが高いものが多い

積層セラミックコンデンサ

電気を蓄えたり電気の流れを整えたりする働きをし、電子回路には欠かせない部品です。



ムラタの世界シェア



ノイズ対策部品EMI除去フィルタ

電磁ノイズを取り除き、デリケートな電子回路を守る部品です。



ムラタの世界シェア



高周波インダクタ

スマートフォンの無線信号など高周波信号のやりとりに使用される電子部品です。



ムラタの世界シェア



表面波フィルタ

無線信号の中から必要な信号だけを取り出すフィルタは高周波回路のキーデバイスです。



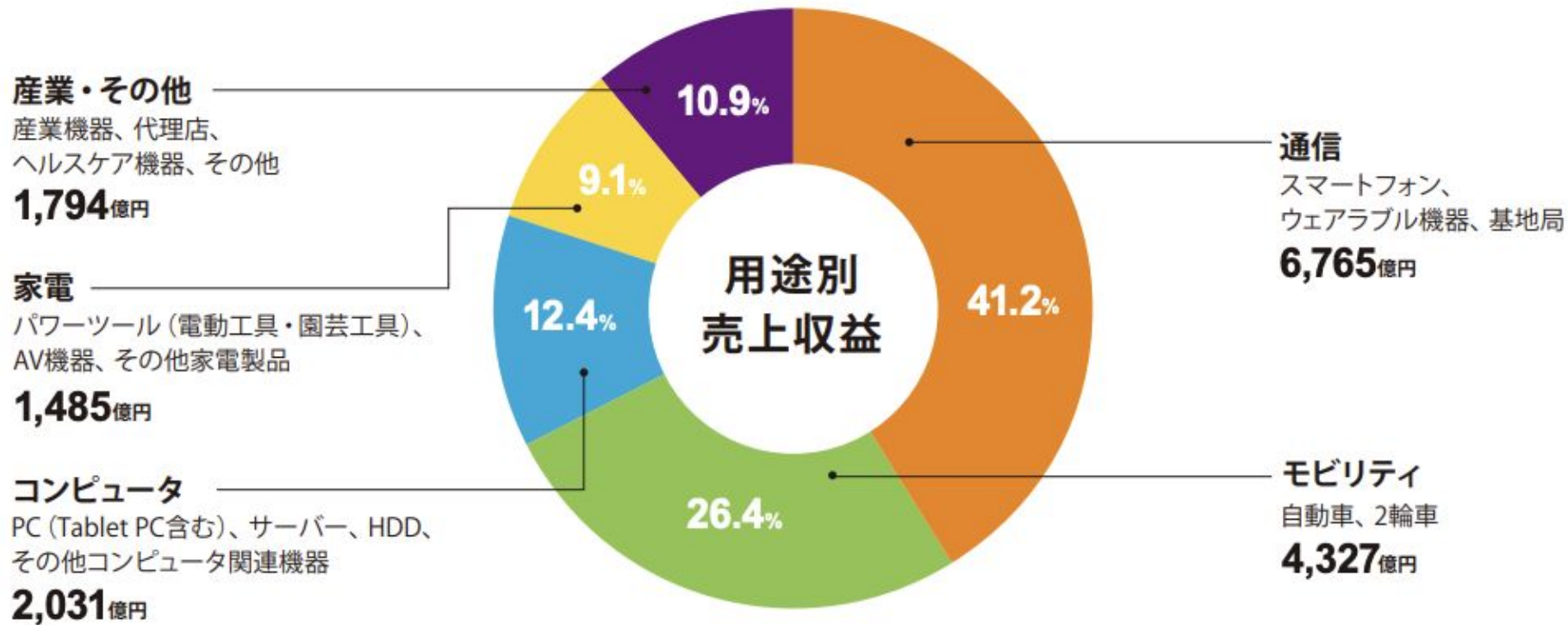
ムラタの世界シェア



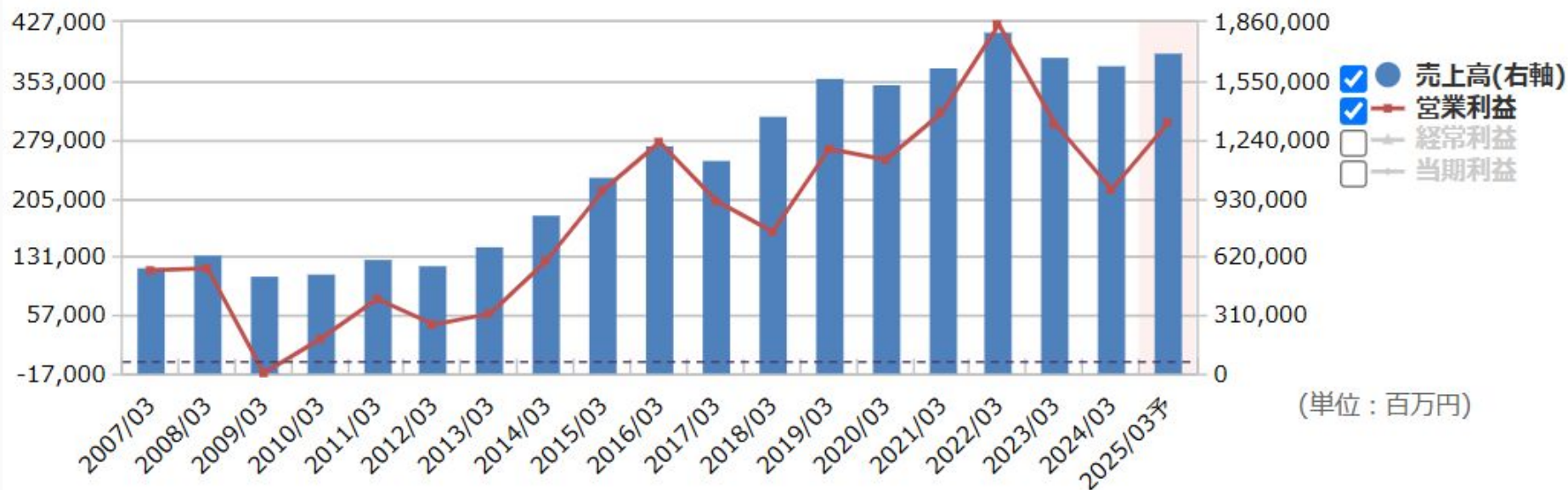
積層セラミックコンデンサ等の電子部品は 様々な電子デバイスで使用する

製品名	スマートフォン 	ノートPC 	タブレットPC 	自動車 	デジタルTV 	スマートウォッチ 
積層セラミック コンデンサ(MLCC)	1,000	800	600	5,000-8,000	600	350
EMI除去フィルタ(EMIFIL®)	60	60	90	270-400	50	30
インダクタ(コイル)	300	30-50	200	400-500	30	30-50
表面波フィルタ	4-70	—	4-70	0-30	—	0-30
多層LCフィルタ (フィルタ・カップラ・バランなど)	2-20	2-4	2-20	2-8	2	3-6

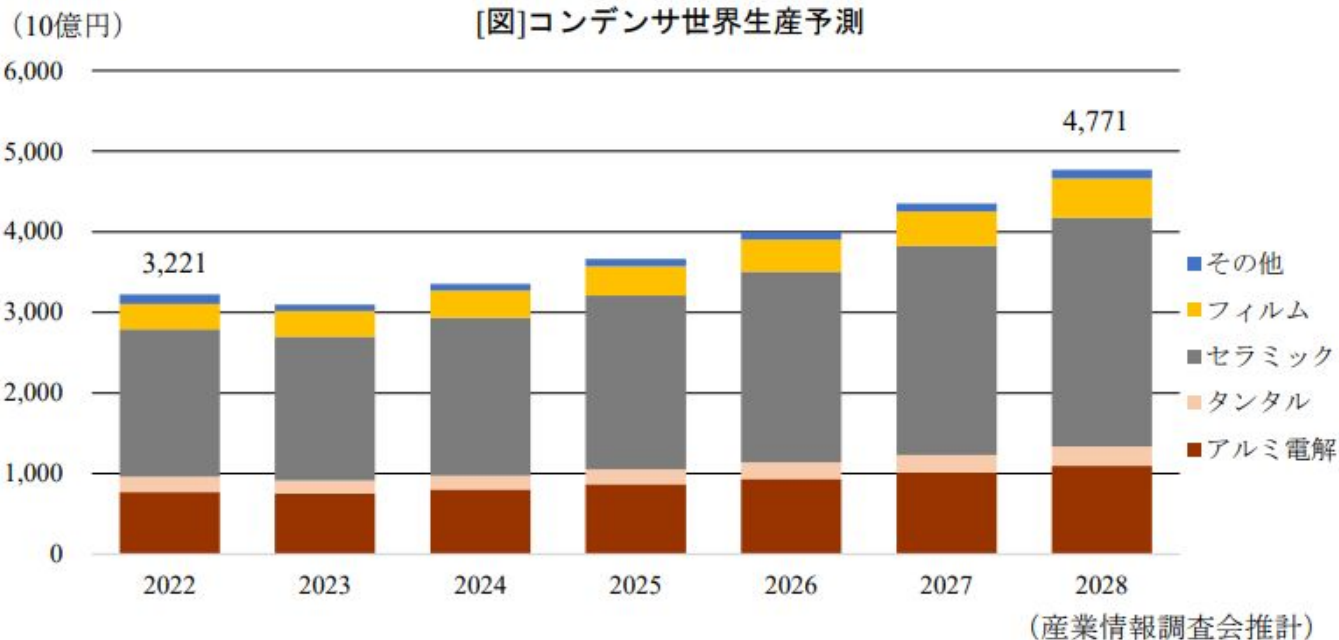
用途別では、通信向け(特にスマホ)、 モビリティ向けが多い



業績推移



セラミックコンデンサを中心に、市場は拡大予測

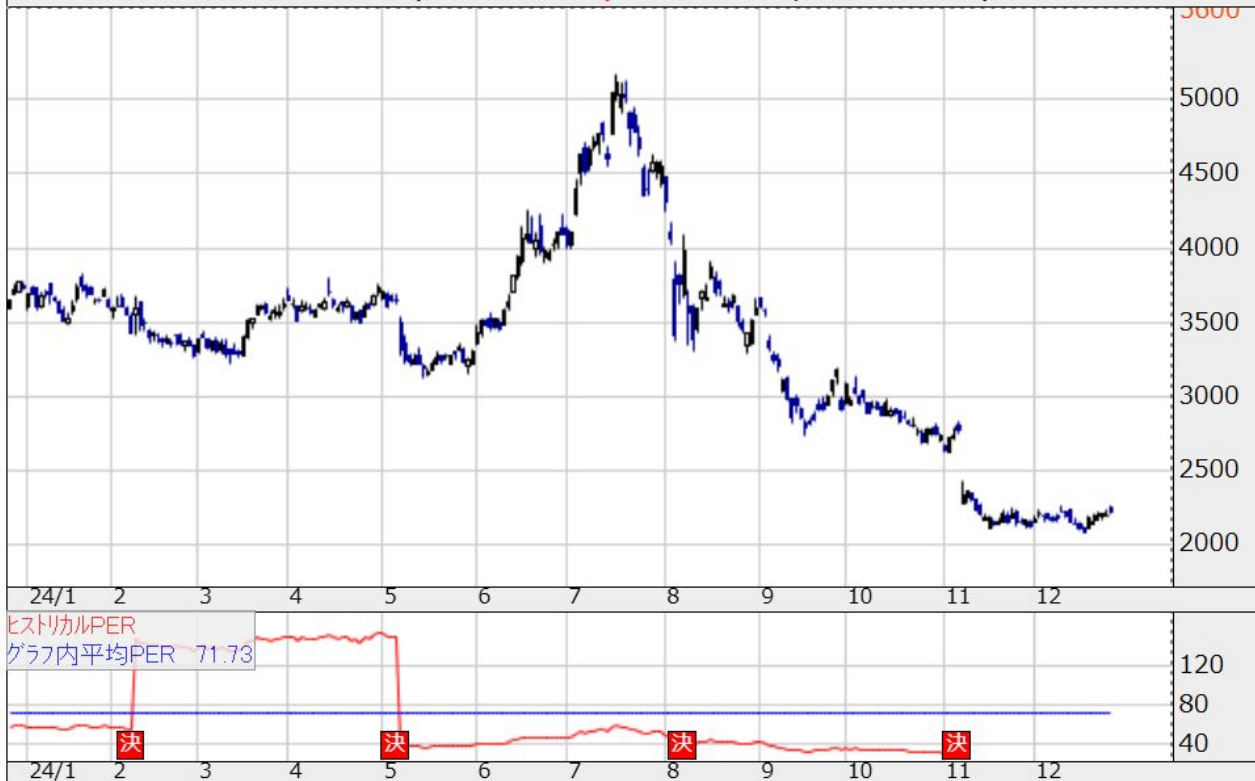


市場拡大後押しの背景

- ・自動車の電装化
- ・DX
 - ➡産業機器需要増
 - ➡通信機器需要増
- ・生成AIブーム
 - ➡データセンタ需要増
 - ➡端末需要増 (AIPC, AIスマホ)

2024年6月頃から、GPUの次は 「積層セラミックコンデンサだ！」の風潮が高まる

日付 2024/12/25 10:18 始値 2,249.5 高値 2,271.5 安値 2,213.5 終値 2,220.0



■背景

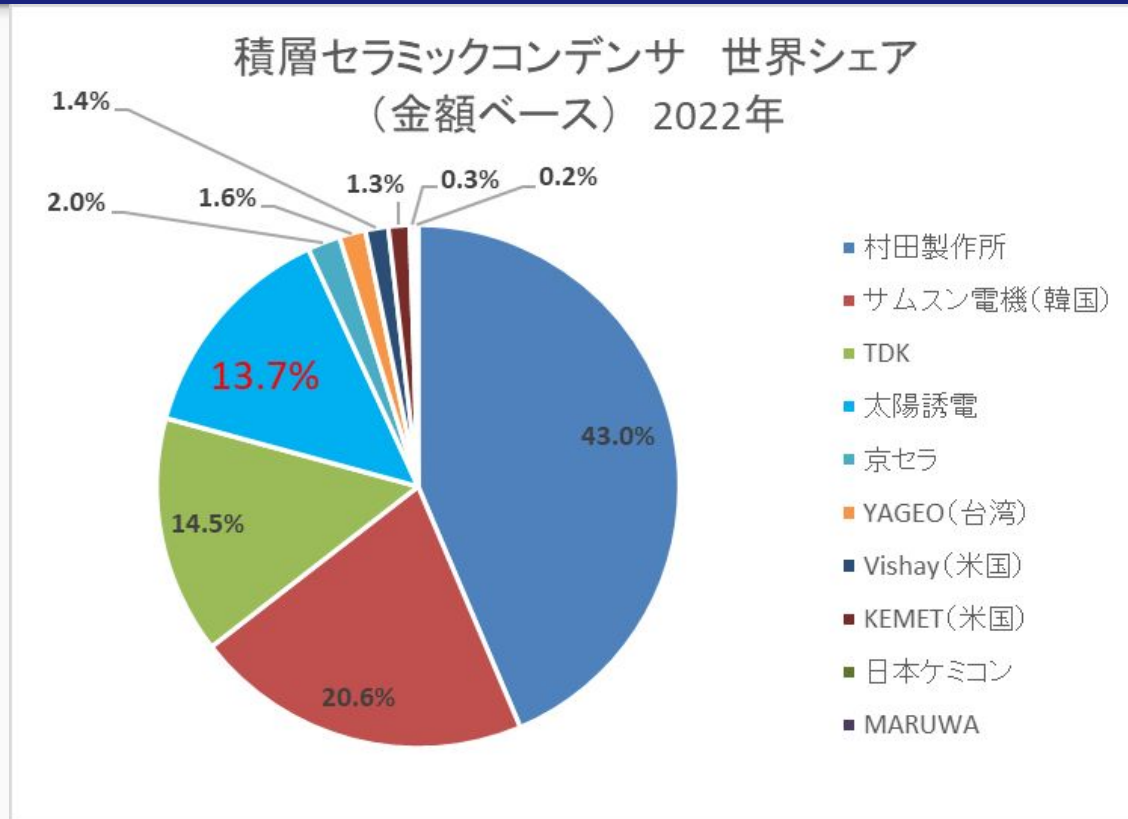
- ・スマホの買替サイクル
- ・AIスマホ・AI PC需要
- ・AIデータセンタ需要

業界No.1、村田製作所の強み・リスク

	好影響	悪影響
内部環境	【強み】 ● 品質 ● 生産効率 ● グローバル規模での安定供給力 ● 主力製品の高シェア	【弱み】 ● 業績変動が大きい体質 ● 価格交渉力
外部環境	【機会】 ● 長期にわたる電子機器類の端末数増加 ● 電子機器類の高性能化 ● AIデータセンターの増加	【脅威】 ● 自動車、スマホ、データセンター等の需要減

一旦ここまで

主力の積層セラミックコンデンサのシェアは 世界1位の43.0% (2022年)

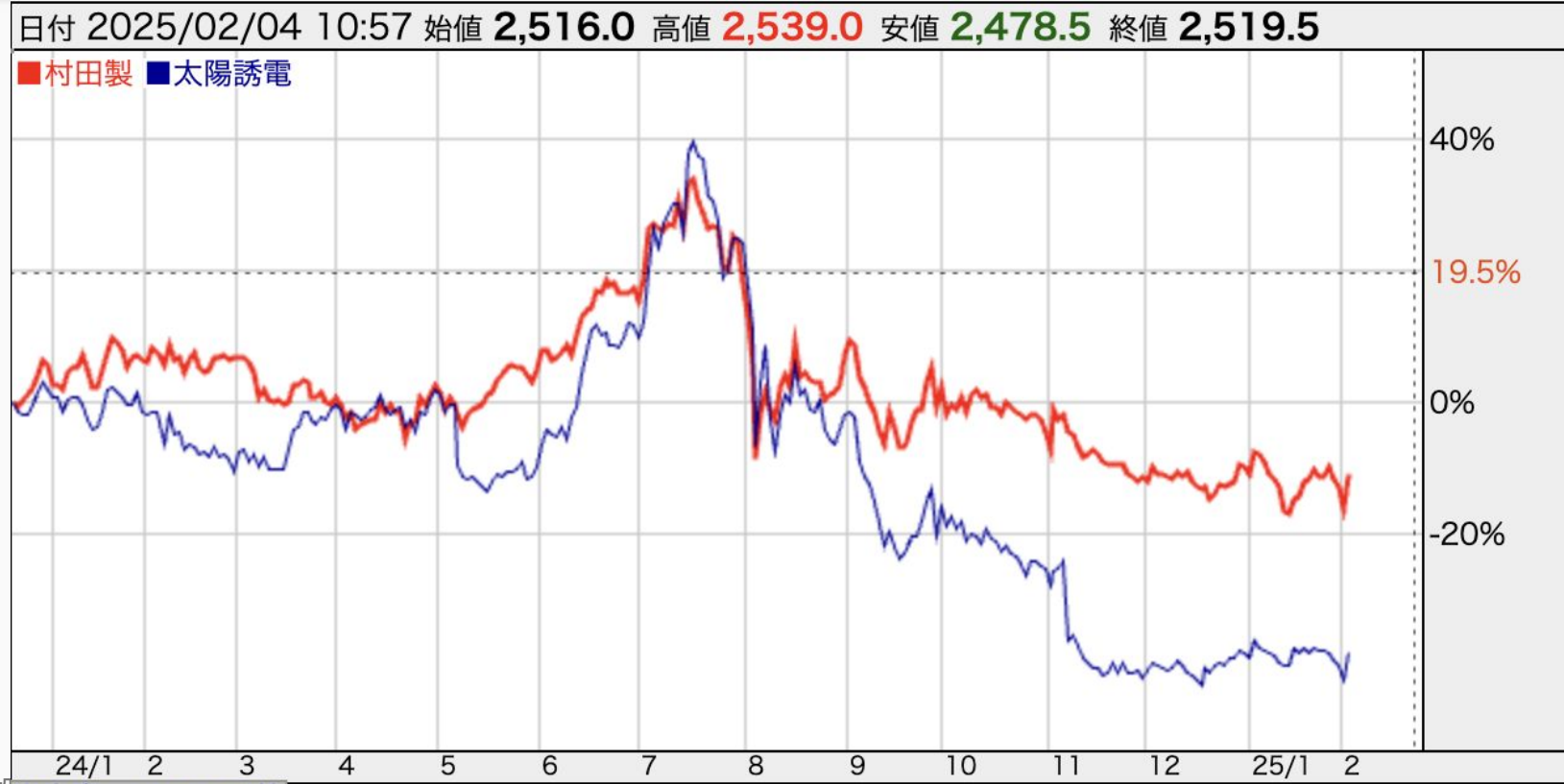


直近1年の株価の変動は非常に大きい

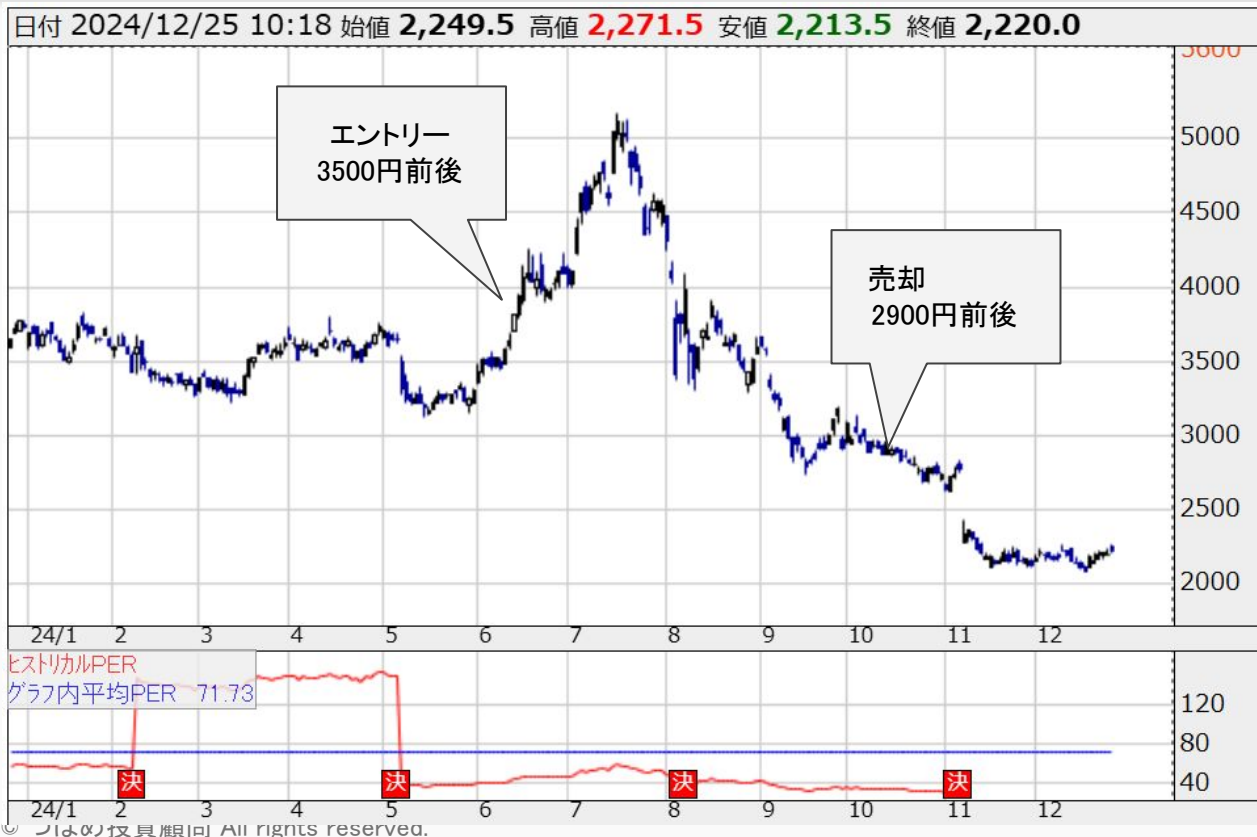
日付 2025/02/04 10:51 始値 2,516.0 高値 2,539.0 安値 2,478.5 終値 2,518.5



競合の太陽誘電(6976)と似た株価の動きをしている



太陽誘電は、元「井村銘柄」

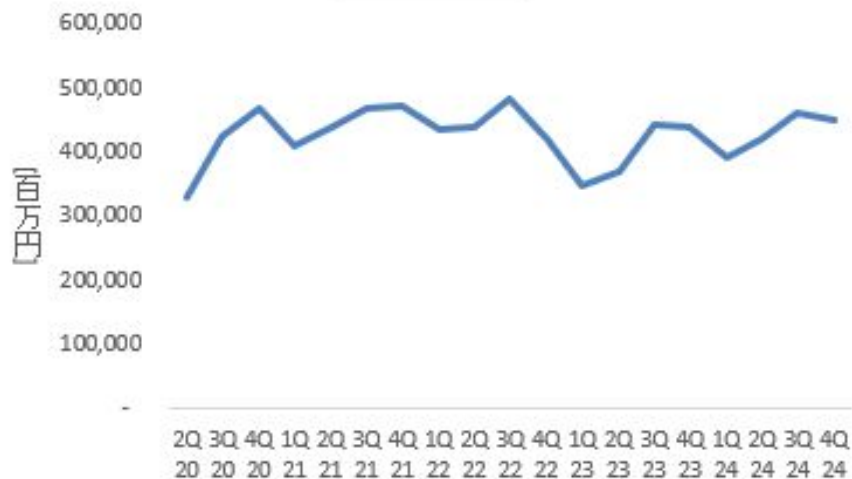


今年(2024年)6/17、
あるXアカウントの
ツイートにより、
井村氏が太陽誘電の株を
保有していることが発覚。

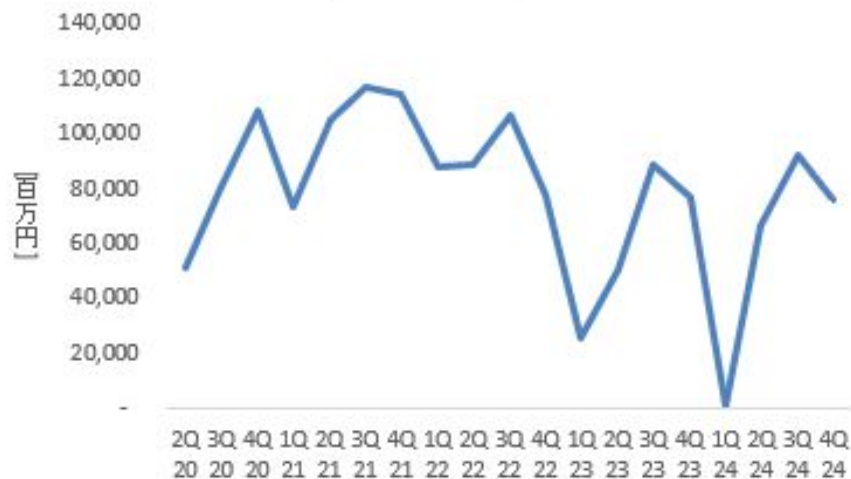
その後、10月中頃に
損切りしたと言われる。

業績は横這い 四半期ごとに波が大きい

売上高合計



営業利益高

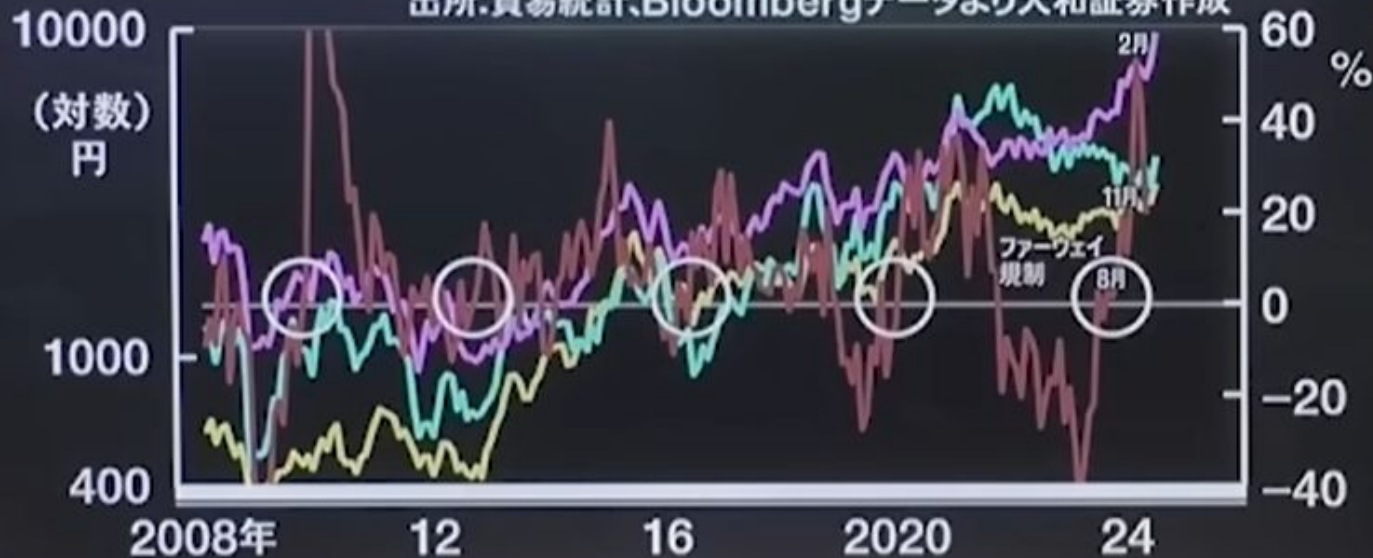


株価上昇局面では、3年サイクルのiphoneの買い替え需要への期待により、電子部品メーカーが注目されていたが...

電子部品株価と積層コンデンサー輸出数量(6/20時点)

- 村田製作所(月足、左)
- TDK(月足、左)
- 太陽誘電(月足、左)
- 積層コンデンサ輸出数量(前年比、右)

出所:貿易統計、Bloombergデータより大和証券作成



足元の事業環境は、コレといった起爆剤は無い？

	4月時点の業績予想前提	11月時点の環境認識	2月時点の現状認識
売上	- xEVを中心としたモビリティ向けの部品需要の増加 - 幅広い用途において在庫調整からの部品需要の回復(但し、得意先による在庫積み増しはなし) - パワーツール市場の在庫調整は上期まで継続 - 通期前提為替レート：145円/USD	- AIサーバー関連の部品需要堅調 - スマートフォン全体に占めるローエンド端末割合の増加、ハイエンド端末は変更無し - 電動化・電装化の流れは不変も、EV市場の成長率は想定比で緩やか - パワーツール市場の在庫調整は上期で完了、下期は実需見合い - 製品価格の値下がりは想定範囲内 - 下期前提為替レート：145円/USD	- 各市場のセット台数見通しに大きな変化無し - AIサーバー関連等ITインフラ向けの部品需要は堅調 - BEV成長鈍化も、モビリティの員数・高機能部品需要の増加トレンドは継続 - 製品価格の値下がりは想定比で緩やか 4月想定比で円安水準が継続
生産	- 需要数量増に合わせ、生産高は増加 - 需要増に備えた生産体制の構築	- 上期は為替レート除きの生産高は減少、特にデバイス・モジュールの在庫消化が進展 - 下期はコンポーネントで若干の在庫積み増しを計画	- コンポーネントは高い操業度を維持 - 第4四半期は在庫積み増しを計画
費用	- 操業度の改善に伴う生産関連費用の増加 - 強固な経営基盤構築のための人的資本投資やDX関連費用等の増加	- リチウムイオン二次電池の構造改革費用など一時費用の計上 4月予想比で固定費を抑制	- 電池事業の2025年度黒字化に向けた構造改革の継続 - 統制可能な固定費の抑制を継続

川上側の電子部品メーカーは、ブルウィップ効果の影響を繰り返し受け続ける

※前回の需要量が80だった顧客への供給量を決める場面において…

今回の需要量は100だけど
欠品させたくないから
120で発注しよう…

営業からの発注は120だけど
増えるかもしれないから
140で指示しよう…

調達からの指示は140だけど
何かが起きたときに備えて
160で生産しよう…

営業部門

調達部門

生産部門



各部門の思惑により実際の需要変動から乖離してしまう

川上側の電子部品メーカーは、ブルウィップ効果の影響を繰り返し受け続ける

※前回の需要量が80だった顧客への供給量を決める場面において…

今回の需要量は100だけど
欠品させたくないから
120で発注しよう…

営業部門



営業からの発注は120だけど
増えるかもしれないから
140で指示しよう…

調達部門



調達からの指示は140だけど
何かが起きたときに備えて
160で生産しよう…

生産部門



各部門の思惑により実際の需要変動から乖離してしまう

主要製品は「コンデンサ」



積層セラミックコンデンサ

世界トップクラス（小型・薄型・大容量）で豊富なバリエーションのMLCCをご用意しております。便利な選定法についてもご提案します。



インダクタ

高機能化・多機能化するスマートフォンをはじめとした小型・薄型デジタル機器の低消費電力化などに貢献。



高周波デバイス

積層セラミック、FBAR、SAWの3技術で幅広いニーズに対応。



導電性高分子ハイブリッドアルミニウム電解コンデンサ

大容量・高耐圧を求められる車載装置や産業機器に最適なコンデンサです。

詳しく見る

詳しく見る

詳しく見る

詳しく見る

仕様検索 (TY-COMPAS) 
PDF製品情報 

仕様検索 (TY-COMPAS) 
PDF製品情報 

仕様検索 (TY-COMPAS) 
PDF製品情報 

仕様検索 (TY-COMPAS) 
PDF製品情報 

電子機器にとって欠かせない「小さな電気の管理人」。
スマホから電気自動車まで、あらゆる機器類に「電気の流れを整える」ために使われる。
高性能デバイスになるほど、沢山使われる。

両社とも業績の上下動は大きいが、比較すると村田製作所の方が安定性はある

受注安定性の差

コンデンサ事業の売上対前年比



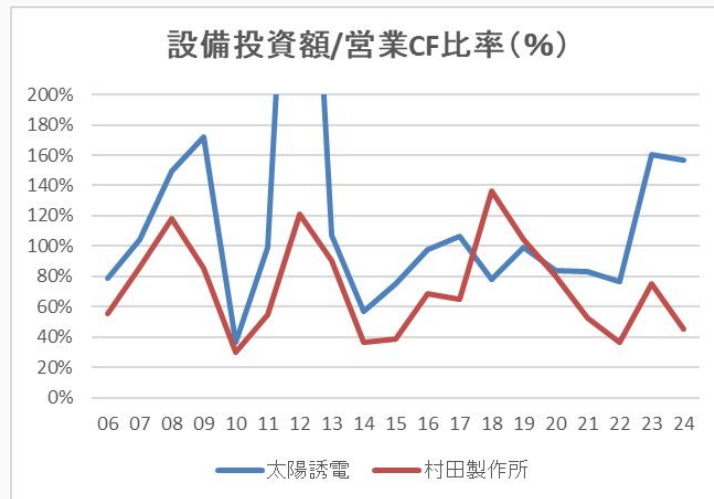
太陽誘電と比較すると、
コンデンサの売上対前年比は
安定。

利益率でも村田が上、設備投資の負担も小さい

利益率の差、バラつき



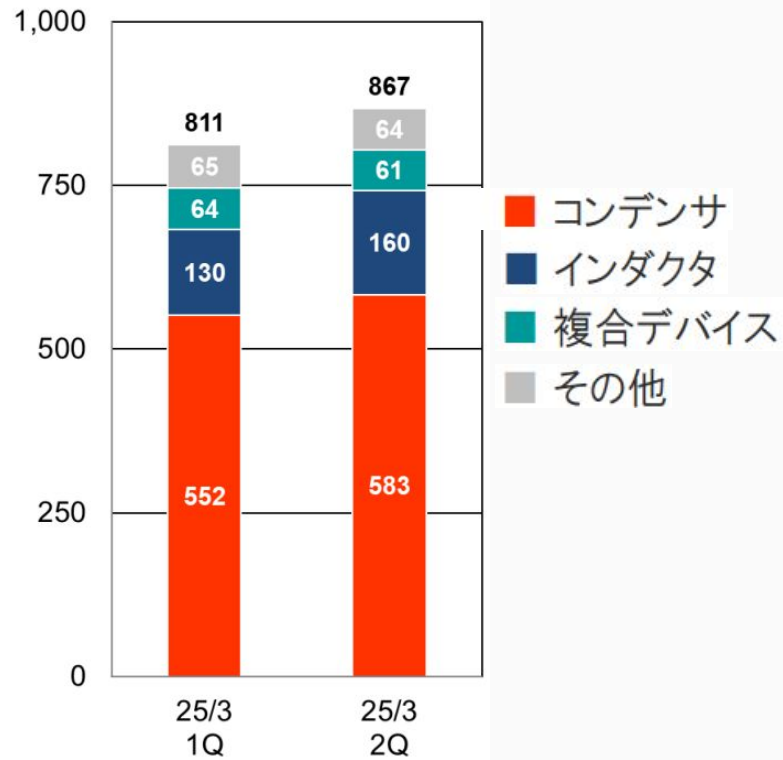
設備投資負担の差、バラつき



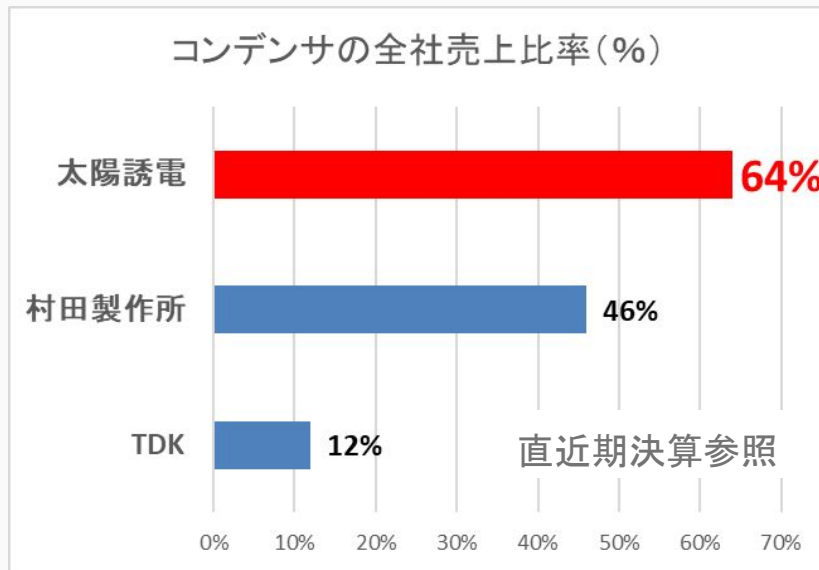
足元では、コンデンサは売上の「6割強」

コンデンサの全社売上比率は、競合と比べても高い

(億円) 太陽誘電 売上内訳



コンデンサの全社売上比率(%)



太陽誘電の通期見通しは大きく下方修正する結果に

2. 連結業績予想の修正

(1) 2025年3月期 連結通期(2024年4月1日 ～ 2025年3月31日)業績予想

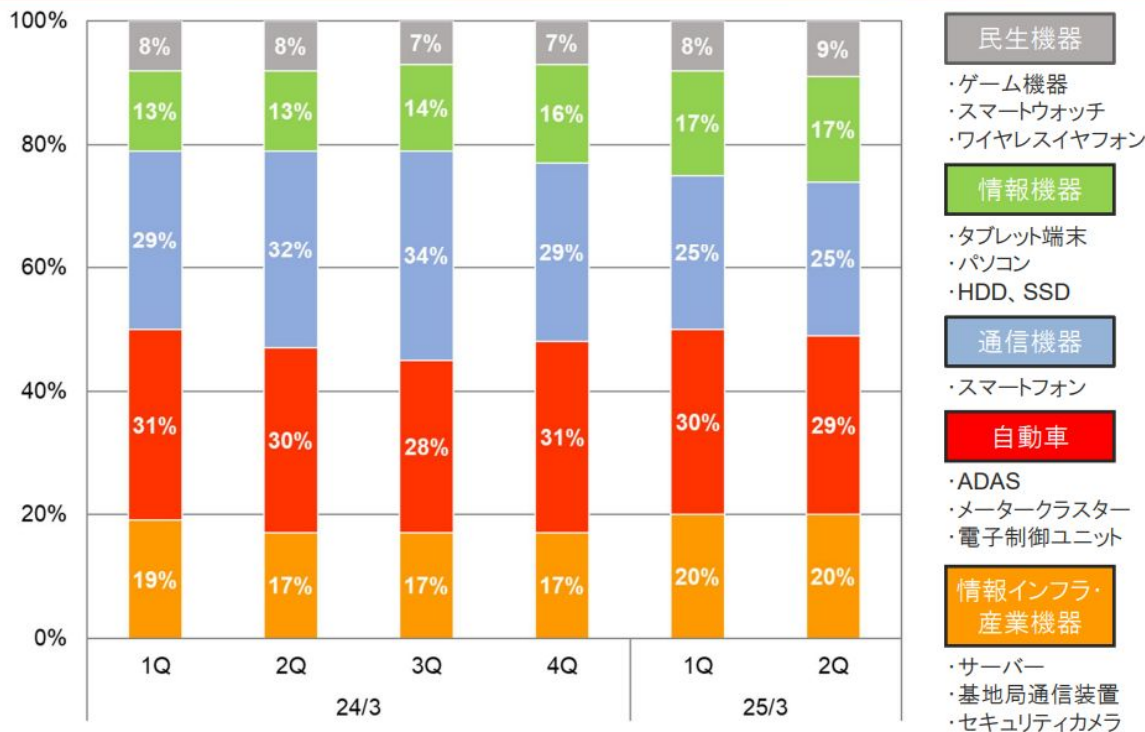
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	350,000	20,000	16,500	11,000	88 円 26 銭
今回予想 (B)	330,000	7,600	6,000	0	-
増減額 (B-A)	△20,000	△12,400	△10,500	△11,000	
増減率	△5.7%	△62.0%	△63.6%	△100.0%	
(ご参考) 2024年3月期 通期実績	322,647	9,079	13,757	8,317	66 円 75 銭

修正理由: 中国不況 EV需要のピークアウト 為替差損(営業外損失)

AI関連需要への期待以上に、足元の状況が悪い？

用途分野別売上構成



業界トップの村田製作所は、現時点で下方修正ナシ

用途別売上収益



	2023年度		2024年度		2024年度		直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)	第1四半期	第2四半期	上期	(%)	24Q2／24Q1	(%)	24年上期／23年上期	(%)
	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)		(億円)		(億円)	
通信	3,282	40.5	1,549	1,913	3,462	39.2	+364	+23.5	+180	+5.5
モビリティ	2,103	26.0	1,150	1,128	2,278	25.8	▲23	▲2.0	+174	+8.3
コンピュータ	959	11.8	658	744	1,402	15.9	+86	+13.0	+443	+46.2
家電	823	10.2	410	382	791	8.9	▲28	▲6.9	▲31	▲3.8
産業・その他	936	11.5	450	452	901	10.2	+2	+0.4	▲35	▲3.7
売上収益計	8,104	100.0	4,217	4,618	8,835	100.0	+401	+9.5	+731	+9.0

通信	スマートフォン向けで高品質モジュールや無線基盤の増加 ▲スマートフォン向けで高品質フィルムやコンタクトデバイス
モビリティ	自動車向けでコンデンサ、抵抗素子、フィルタ、インダクタの増加
コンピュータ	サーバー向けでコンデンサやフィルムインコンの増加が顕著 PC向けで高品質セラミックコンデンサの増加
家電	ゲーム機向けでリチウムイオン二次電池の減少
産業・その他	産業向けで電圧変動で減少 エネルギー分野向けでコンデンサの減少

良い時は良いが、悪い時は悪いということは

当たればデカいが

読み違えた時のダメージも大きい



井村俊哉 ● α探してます ✓ @imuvill · Oct 13
@imuvill



厄払いしてきました
厄と共にポジションを落とす決断も。

中国を中心に自動車市場の変調と長期展望の不透明感。先んじて当リスク
を十分に評価できておらず、未熟さを痛感するばかり

分かった気になるな
謙虚であれ。

身を切る思いで
7億の血を流し
少しは謙虚になれるかな？

#年初来パフォ +2.2%

[Translate post](#)

太陽誘電は〇〇やってる会社 コンデンサ インダクタ 複合デバイス(通信デバイス、回路モジュール) その他

売上構成比はコンデンサが大多数(競合比でも大きい)、
コンデンサは〇〇の役割があり
コンデンサの種類はこんな感じ、大多数が積層セラミック

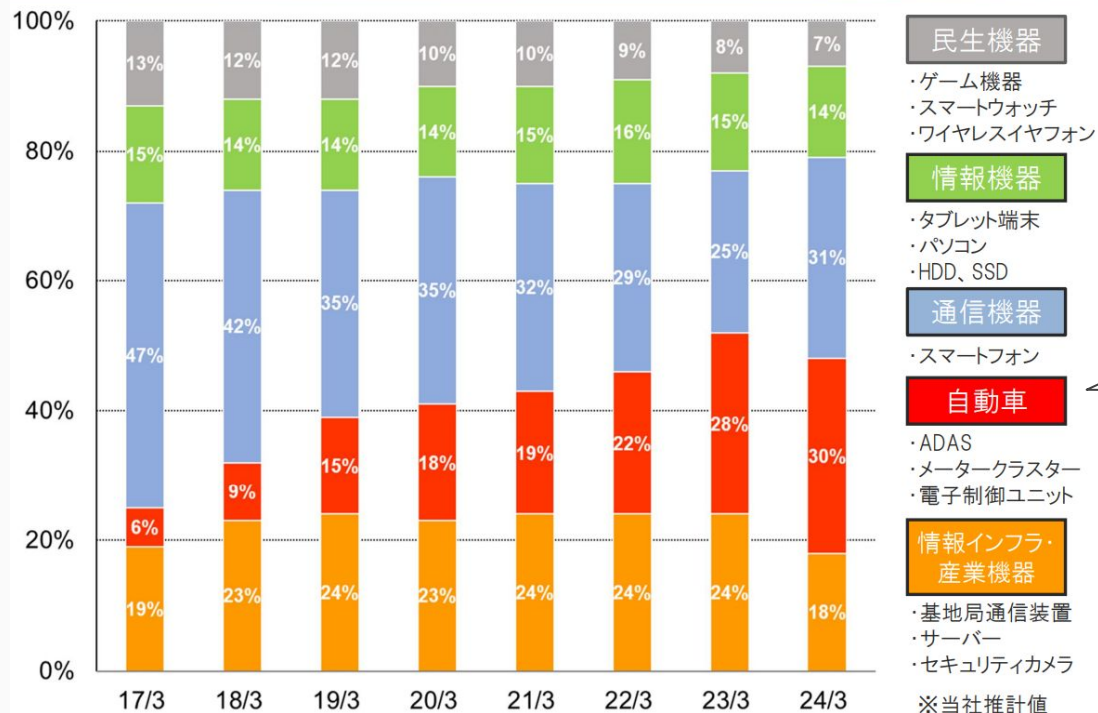
市場は伸びる予測のため、なかなか面白いように見える
MLCCはこういうところで使われる。スマホ、車載で〇個も搭載！
AI特需の恩恵もうける。AIデータセンタ向け、AIスマホ、AIPC需要にも期待が持てる。
最もコンデンサ比率が高い太陽誘電に井村氏が目を付けたのもわかる

が、直近では業績の下方修正が発生。その理由は？
用途別だと、長期で車載向けが伸びていたが、直近ではEV向けのピークアウトが生じている。
中国不況にともない、通信機器や産業・民生機器向けも不調。先行き不透明感の見方から、業績予想を下方修正した。利益インパクトは非常に大きい。

井村氏はAI関連銘柄として目を付けたが、AIデータセンター投資こそ活況だが、村田と異なり、サーバー需要の恩恵を受けたという文言は見当たらず。期待されていたiphoneの買替がいまひとつ、車載向けがへこむ。
車載向けが不調で、AI実需が伴わないフェーズでは、コンデンサの使用量は期待ほど激増するわけではなさそう、ということだったのでないか。

用途別では、中長期で 通信機器から自動車向けの比率が増えてきた

2024年3月期 用途分野別売上構成



自動車の電装化、EV車の普及により、コンデンサの需要が増加

業界トップの村田製作所は下方修正ナシ

通期予想も据え置き

AIサーバ向けMLCC好調、村田製作所は増収増益

(2/2 ページ)

🕒 2024年11月06日 10時30分 公開

[永山準, EE Times Japan]

事業環境としては、AIサーバ関連の部品需要が強くなっている一方、スマホ市場では中華圏におけるローエンド端末の割合が増加している他、EV（電気自動車）市場の成長率が想定比で緩やかになっているといった変化を挙げている。

同社によればサーバ1基当たりのMLCC搭載数は、従来のサーバと比較しAIサーバが最大10倍になるという。村田製作所社長の中島規巨氏は、「AIサーバは今後も2025年、2026年と大きく成長と考えている。われわれのAIサーバ関連の売り上げを見ると、23年から24年にかけて約2.8倍成長している。まだ黎明期だが大きな成長市場と見ている」と語っていた。

市場動向

EVやAIサーバーで MLCCの需要拡大 電子部品のなかで急成長しているのが、セラミックを誘電材料とした積層セラミックコンデンサー（MLCC）だ。MLCCはコンデンサーのうちの8割を占め、自動車1台に6千～1万個、スマホ1台に600～1000個ほど使われる。

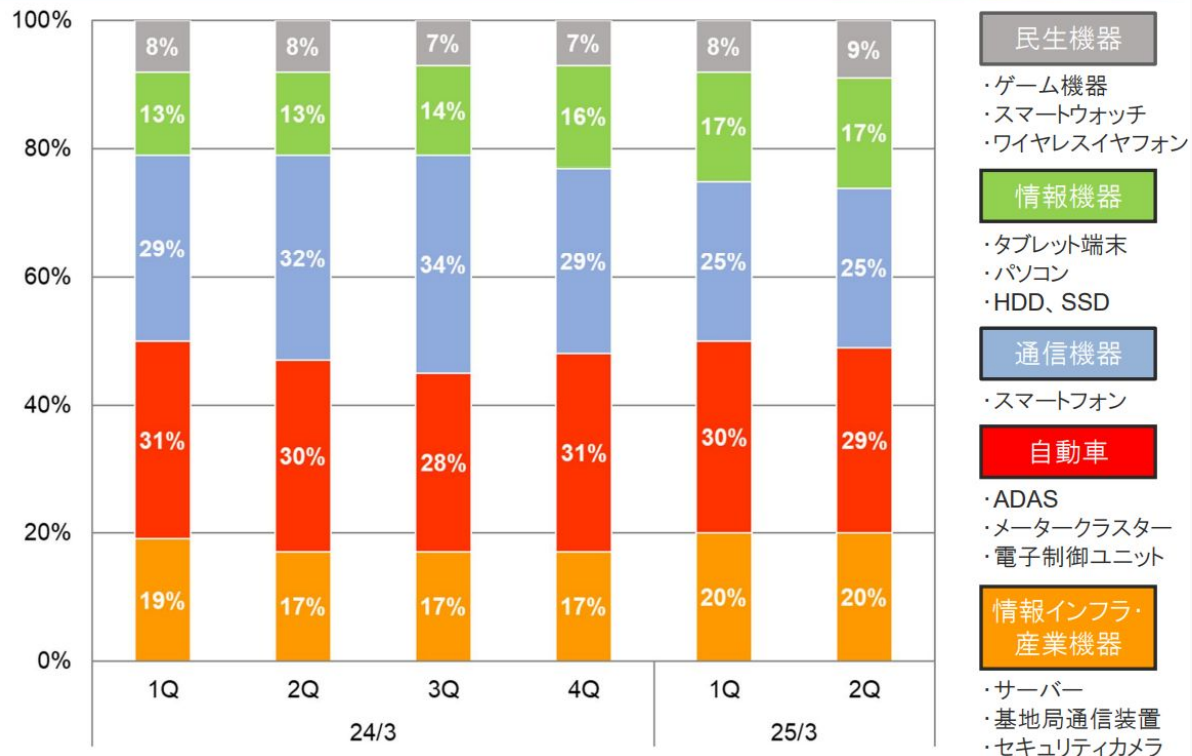
MLCCの目下のテーマは小型化と大容量化だ。現在は「0603」（0.6ミリ×0.3ミリ）が主流だが、「0402」（0.4ミリ×0.2ミリ）と呼ぶ最先端品を採用するスマートフォン（スマホ）メーカーが増えている。20年以降普及が本格化した次世代通信規格「5G」通信の基地局向けに、MLCCの需要はさらに伸びている。一方、大容量化では、太陽誘電が18年5月、MLCCとして業界最大となる1000マイクロファラッドの静電容量製品を開発、量産している。MLCCの大容量化により電解コンデンサーから市場を奪いたい考えた。村田製作所は24年9月、現在の最小サイズ品体積比4分の1のMLCCを開発した。新世代の小型品の投入は約10年ぶり。25年3月期末にサンプル出荷を始め、高機能化するスマホやウェアラブル機器などへの採用を働きかける。（2024/12/02調査）

競合状況

村田製、コンデンサー事業で積極投資 24年度になって電子部品大手8社(村田製作所、TDK、ニデック、京セラ、ミネベアミツミ、太陽誘電、ローム、アルプスアルパイン)の業績見通しに不透明感が出ている。25年3月期の純利益予想について、太陽誘電など4社が下方修正した。世界的に自動車各社の業績がピークアウトしつつあることが影響する。人工知能(AI)分野向けは引き続き好調だが、裾野が広い自動車の生産減速を補い切れていない。

MLCCで世界シェア約4割を占めて首位の村田製作所は、MLCCの基幹材料のチタン酸バリウムを一部内製しているのが強み。インダクター(コイル)なども競争力が高い。同社は23年3月にタイでMLCC工場を、同年4月には出雲村田製作所(島根県出雲市)のイワミ工場にMLCC生産棟を新設した。タイのMLCC工場は23年11月に稼働、28年までに数百億円を投じてフル稼働させる。中国江蘇省の工場でも約450億円を投じて生産棟を新設、MLCC部材を増産する。さらに福井県越前市に350億円を投じてMLCCの研究開発センターを26年4月までに設立する。24年2月、島根県出雲市の工場にMLCCの新たな生産棟を建てると発表した。設備投資額は470億円で、26年3月の竣工を予定する。同社の24年3月期のコンデンサー事業の売上高は前の期比2%増の7535億2000万円だった。24年10月、フランス子会社の工場に医療機器向けシリコンコンデンサーの生産ラインを新設した。(2024/12/02調査)

用途分野別売上構成



通期	業績推移	修正履歴	成長性	収益性	1Q	2Q	3Q	4Q
決算期	修正日	－ 修正方向	売上高	営業益	経常益	最終益	修正配当	
2020.03	19/05/13	初	290,000	38,000	37,000	25,000	22	
	20/02/07	修 → → → → ↑	290,000	38,000	37,000	25,000	26	
	20/04/27	修 ↓ ↓ ↓ ↓ →	282,000	37,000	35,000	17,800	26	
	20/05/12	実 ↑ ↑ ↑ ↑ →	282,329	37,176	35,165	18,022	26	
2021.03	20/05/12	初	—	—	—	—	30	
	20/08/07	修 - - - - →	265,000	27,000	26,000	17,000	30	
	20/11/09	修 ↑ ↑ ↑ ↑ →	284,000	34,000	33,000	22,000	30	
	21/02/08	修 ↑ ↑ ↑ ↑ ↑	295,000	38,000	37,000	24,500	40	
	21/05/13	実 ↑ ↑ ↑ ↑ →	300,920	40,766	41,247	28,615	40	
2022.03	21/05/13	初	328,000	47,000	45,000	30,000	60	
	21/08/05	修 ↑ ↑ ↑ ↑ →	333,000	55,000	54,500	39,500	60	
	21/11/05	修 ↑ ↑ ↑ ↑ ↑	345,000	64,000	64,000	48,000	80	
	22/05/10	実 ↑ ↑ ↑ ↑ →	349,636	68,218	72,191	54,361	80	
2023.03	22/05/10	初	385,000	70,000	69,000	48,000	90	
	22/11/07	修 ↓ ↓ ↓ ↓ →	342,000	42,000	48,000	33,500	90	
	23/02/07	修 ↓ ↓ ↓ ↓ →	315,000	31,000	32,500	20,000	90	
	23/05/09	実 ↑ ↑ ↑ ↑ →	319,504	31,980	34,832	23,216	90	
2024.03	23/05/09	初	322,000	15,000	14,000	8,000	90	
	24/02/07	修 ↓ ↓ ↓ ↓ →	321,000	10,000	10,000	3,000	90	
	24/05/08	実 ↑ ↓ ↑ ↑ →	322,647	9,079	13,757	8,317	90	
2025.03	24/05/08	初	350,000	20,000	16,500	11,000	90	
	24/11/07	修 ↓ ↓ ↓ ↓ →	330,000	7,600	6,000	0	90	

太陽誘電 佐瀬社長

ニュース一言

+ フォローする

2024年6月17日 2:00 [会員限定記事]



生成AI（人工知能）の普及を背景に世界のデータセンター市場が拡大している。電気の流れを整える積層セラミックコンデンサー（MLCC）の需要が先端品分野で増す。

太陽誘電の佐瀬克也社長は「生産能力を高めて、ビジネス機会を損なわないようにする」と意気込む。AI向けのサーバーではMLCCの搭載数がこれまでの2倍になるとみて、マレーシアに新工場棟を建てるなど生産体制を整え、需要拡大に備える。



出典：[日経新聞](#)

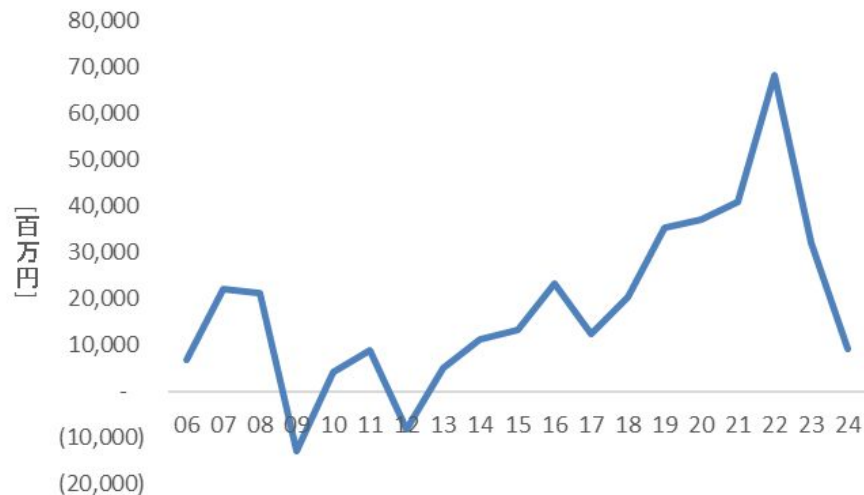
	2023年度 実績	2024年度 予想	増減
スマートフォン	11.4 億台	11.8 億台	+3%
内 5G端末	6.6 億台	7.7 億台	+17%
PC	3.6 億台	3.7 億台	+2%
自動車	9,000 万台	9,000 万台	横這い
内 xEV	3,000 万台	3,600 万台	1.2倍

(注) スマートフォンとPCは部品取込ベース、自動車は生産台数ベース

良い時は良いが、悪い時は悪い

(株価は太陽誘電の方が村田より激しく動く傾向)

太陽誘電 営業利益高



村田製作所 営業利益高

